

平成 31 年度長野県高校総体登山大会 事前研究資料

八ヶ岳

八ヶ岳は長野県と山梨県にまたがる南北約 25 km、東西約 15 km の山の総称であり、山そのものに八ヶ岳と名付けられた山は存在しない。主峰は赤岳。中級から上級まで登山やトレッキングが楽しめ、また見る角度から様々な表情を見せてくれるのも魅力の一つ。

八ヶ岳の名の由来は、多くの山々が連なる様子からたくさんという意味で、八としたなど様々な由来がある。

出典：八ヶ岳ってどんなところ？～わたしたちのおもてなしブック～ 八ヶ岳観光圏

八ヶ岳連峰

本州の中央部に南北に長く連なって群立し、一大山群を形成しているのが八ヶ岳連峰である。山脈というほど長大なものではない山群である。一般的には八ヶ岳と称している。

その特徴はその成り立ちの歴史からもいえる。八ヶ岳は日本アルプスの様に地殻変動によって形成された山ではなく、一連の火山の噴出によってできた連峰である。だから、山群自体は独立性が強い。

そして、いかにも火山の山らしく緩やかな裾野を引き、周囲には広い山麓高原が開けている。だが、それが頂稜にいたると複雑な浸食や爆裂によって険しい岩稜帯となる。しかも、その標高たるや 3000 m に近く日本アルプスにもひけをとらない。

山麓には高原野菜畑や牧場ののどかな風景がみられるが、中腹になると全面黒木に覆われそれが頂稜部にいたると岩と雪と氷の世界になる。

このように垂直の変化は見事だが、南北の対照も面白い。

八ヶ岳連峰は中間の夏沢峠を境にして南北山容が大きく異なることから北側を北八ヶ岳（北八ツ）南側を南八ヶ岳（南八ツ）と呼んでいる。

北八ヶ岳は原生林に覆われた緩やかな山々が連なり、その中にはいくつもの山湖を配している。それに対して南八ヶ岳は右にのべたような岬々たる岩山を連ねる。

広大な高原と鋭い峰々、深い原始の森と静かな山湖。八ヶ岳連峰はこのような山のあらゆるものを持ち合わせている。山というものの一つの完成した姿を見ることができる。

南北約 30 km という決して長大ではないこの連峰にこれらをすべておさめまきにはちきれんばかりである。

八ヶ岳という山名はこの山群の中に八つの峰があるから八ヶ岳と言う人もいるが、どれをさして八つと言うのかは定かではない。多分、八つというのは数多いことを表し、多くの高峰が連なっている山群であると理解すればいい。

蓼科山

◇歴史のある名山

天空に放物線を描くその穏やかな円錐形の山容は、女の神山というにふさわしい。古来、蓼科山は諏訪富士ともよばれてきた。山頂には蓼科神社が祀られている。元慶二（八七八）年、叙位の記録があることから古い歴史を持つ。

蓼科山は前掛山の西の台地に噴出した比較的新しい火山によってできた山である。佐久方

面からみるとそれが前掛山の上にお供え餅のように重なることからお供え山とも呼ばれてきた。頂上付近は大きな溶岩塊がゴツゴツと重なり合っている。頂上は広く、その真中がわずかにへこんでいるが、そこが火口跡である。この頂上は標高が2500mを超えているから高さからいっても日本アルプス以外では有数の高山だ。

八ヶ岳連峰の最北端に位置し、一頭他を抜きんでているからどこから眺めても目立つ存在だ。遠く離れて北アルプスあたりからもまず蓼科山の特徴ある山容が目に入り、一連の山群は八ヶ岳連峰と同定できるくらいだ。

しかも、周辺の条件もいい。蓼科高原や白樺湖、女神湖と引き立てる素材には事欠かない。それに深田久弥はこの山を日本百名山の一つにも選定している。その基準は品格、歴史、個性だという。この山はこれらいずれの条件にも十分すぎるほどかなった名山中の名山と言えよう。その影響もあってか登山の人気は高い。春から秋にかけては登山者はほとんど途切れない状態だ。

◇第一級の展望

この山は眺めていい山だが、登ればいっそうその良さを実感できる。頂上は森林限界をはるかに抜けている。しかも、一等三角点が置かれているくらいだから、四方の展望は抜群である。ことに八ヶ岳連峰の全景を視野に収めることのできる最良の場所でもある。

<花・樹木>

6月、女神湖から七合目にかけては、あちこちでレンゲツツジが咲き競う。それが終わると、蓼科山の上部ではミネザクラやハクサンシャクナゲが咲き始めて夏を告げる。そして、ツガザクラやコイワカガミ、ゴゼンタチバナ、コケモモ、シナノオトギリなど、夏の花が咲く。八月中旬になると、ミヤマアキノキリンソウが黄色い花を風になびかせて秋を告げる。9月下旬には蓼科山上部のダケカンバやミネザクラが色づき始めるが、10月に入ると蓼科山や前掛山の北面一体ダケカンバやナナカマド、カラマツなどが赤・黄の色を織りなし、目も覚めるばかりだ。大規模な紅葉の少ない八ヶ岳にあっては随一の紅葉であろう。

出典：八ヶ岳 一山と高原を訪ねる一 星野吉春 信濃毎日新聞社

北八ツの縞枯れ現象

北八ヶ岳の縞枯山を中心に、亜高山帯に針葉樹が縞状に立枯れているところがあります。遠くから見ると美しい縞状の模様が見られ、北八ヶ岳特有の景観をつくっています。

縞枯れの現象は森林の天然更新の一種ですが、更新が階段構造をしていることが他の天然更新と大きく異なっています。シラビソまたはオオシラビソの純林に見られて、標高は2000～2450mの範囲にあり、傾斜角は35°～平坦な所まで分布しています。傾斜面は大部分が南西方向で、南から南東にわたっています。

北八ヶ岳の縞枯れ現象は、蓼科山から箕冠山までの間だけに分布しています。全国的には小規模ながら奥日光・中央アルプス・南アルプス・紀伊半島等にもわずかに分布するといわれています。これはシラビソの分布と関連しているようです。

縞は斑状・狐状・波状などさまざまですが、帯状のものは等高線にそってほぼ水平に延びていて、典型的なものが縞枯山のもので、縞枯れは下から上へと次第に移動して、移動速度は年間1.6～1.7mといわれています。多くの研究者によって研究されていますが、縞枯れ現象の成因を適切に説明しているものはなく、謎を秘めたまま美しい縞模様を見せています。

出典：アーカイブトゥデイ